



平成30年度国立市市民表彰 社会奉仕功労 村上隆秀氏、木島常明氏

～少しでも社会に恩返しをしたい～

一見守り活動をはじめたきっかけを教えてください。

平成19年のことです。朝の通学時間に当時教育次長でした平林さんが村上工業(株)本社前の交差点に居られたので理由を聞いたところ、「市内通学路で一番危険な交差点で、議会で問題になっている」との事でした。この話をきっかけに村上工業として当初3人で始めた見守りです。

村上工業は日に100台以上の車両数を動かし仕事をしているので、せめて車に関連することで少しでも社会に恩返しをしたいという意味もあり始まりました。将来を担う大事な子どもたちの登校時の安全を願って立ち続けています。

一どのような活動をされていますか。

7時半頃から8時10分の子どもたちの登校時間に合わせて「安全登校」のお手伝いをしています。二小の東側、富士見通りの交差点は、五叉路ということもあり車、自転車とも多いところですが、信号機があるので比較的安全ですが、一時的に交差点に溢れるほどの子ども達が集中することもあり、特に傘をさしての雨の日は大変です。



一活動していて嬉しかったこと、印象に残っていることを教えてください。

「今日はみんな元気かな」と思いながらの毎日です。子どもたちの声が小さかったり、元気がなかったりすると「体調が悪いのかな」と心配になりますが、大きな声で挨拶を返してくれた時ほど嬉しいことはありません。

子どもたちの成長には目を見張るばかりです。入学当初はランドセルが歩いているような感じですが、同じランドセルが小さく見えるようになります。その成長を楽しみながらの見守りです。また、卒業して分からないほどに成長した子どもと道ですれ違った時に挨拶をされると、「誰だろう」と一瞬戸惑いますがとても嬉しいものです。

一最近の小学生を取り巻く環境についてどうお考えですか。

残念ながら悲しい事件が社会を賑わしています。環境格差、学力格差など問題点が山積していますが地道に解決していくしかないでしょう。市民全員が他人事ではなく、己のこととして関心を持つことが一番大事だと思います。

一最後に、一言お願いします。

「絶対に事故を起こさせない」との強い意志で、「確認」最重要視の見守りをしています。暴走車の出ないことを祈るばかりです。車、自転車を含めてほとんどの方はルールを守ってくださいますが、稀に子どもたちの前で堂々と信号を無視する歩行者も見受けられます。大声で注意をしていますが自重を願ってやみません。

親御さんも時間を取れるときには、通学状況を見守りながら学校付近にまでお子さんに同行していただくと、子どもたちも張り切るのではないのでしょうか。